

## 令和7年度 第2回学校運営協議会記録

期日 令和8年2月5日(木)

時間 10:00~11:30

場所 サーモンホール

### 1 開会

### 2 議事(報告)

- (1) 令和7年度学校経営の総括について
- (2) 令和7年度各学部経営の総括及び進路状況について

#### ◆質問・意見

##### 【F委員】

小学部の説明の中に、「交流籍」という用語が出てきたが、具体的に説明していただきたい。

##### 【学校】

特別支援学校の小・中学部に在籍する児童生徒が、保護者の希望により、居住地(自分の住んでいる地域)の小・中学校に籍を置き、年に1~2回程度、居住地の学校に登校し、その学校の児童生徒と一緒に学習することができる。この際の副次的な学籍を交流籍という。特別支援学校に在籍する児童生徒が、居住地の学校(小・中学校)の児童生徒と交流や共同学習を行うための制度である。

補足となるが、例えば、先ほど説明の際、スライドに映っていた児童は、本来は居住地の小学校に入学する児童である。現在本校に通学しているが、保護者の希望により、居住地の小学校に副次的に学籍を置くことで、年に数回、その小学校の児童と一緒に学習活動を行う機会が持てる。地域とのつながりを維持する観点から、県が運用を進めている制度であり、義務教育すなわち小・中学校、本校においては、小学部と中学部で実施しているものである。

##### 【C委員】

様々な授業や活動に取り組んでいる様子がよく理解できたが、児童・生徒によっては、これらの授業や活動に参加することが難しい場合もあると考えられる。実際、学習活動に参加できないお子さんがいるのかどうかについて伺いたい。また、そのような場合、どのようなフォロー、支援、取組を行っているのかについても教えていただきたい。

##### 【学校】

集団での学習活動に参加することが難しい児童は一定数いる。そのようなお子さんに対しては、担当職員だけではなく学部全体で児童の目標を共有し、共通理解のもと活動に取り組み支援している。例えば、45分間の授業すべてに参加することが難しい児童については、その児童に応じた個別の目標を設定し、学部職員で「5分間みんなと一緒にいられたら良しとする」など、達成可能な目標を共有している。児童が5分間参加した後に廊下に出たとしても、その行動を否定することではなく、設定した目標が達成できたものとして受け止めている。このように、児童が少しずつステップアップできるよう、目標をスモールステップで段階的に設定し、無理なく階段を上ることができる支援を行っている。「最初から45分間きちんと授業に参加すること」や「苦手な授業でも我慢して参加すること」を求めることはない。現在の小学部の児童については、それぞれのペースを尊

重しながら、自分なりの形で授業に参加できていると考えている。

中学部においても、集団活動への参加が難しい生徒がいる。このような場合は、無理のない形で集団活動の良さを感じられるよう、小学部と同様に参加する時間をあらかじめ設定し、「最初はみんなと一緒に説明を聞くが、その後は別室に移動して個別に学習を進める」といった方法をとっている。また、中学部では、集団学習における「中学部スタンダード」という指標を設けており、言葉の理解が難しい生徒の場合は、必ずイラストやサインといった生徒にとって理解しやすい表現方法を用いるとともに、生徒が表出しやすいコミュニケーション手段、例えば、選択肢や写真等を活用しながら学習を進めている。

高等部においても、集団での活動に参加することが難しい生徒がいる。時間いっぱい参加は望まず、一部だけの参加を認め、その後は別室に移動し、リモートでその学習の様子を見て雰囲気を感じることができる取組を行っている。後は、その生徒がどのタイミングでその集団に入れるようになるかというところを見極めながら指導している。

4月・5月の時期と比較して、現在の児童生徒の姿には大きな変化が見られる。スモールステップによる取組の成果として、集団に参加して活動できる時間が、年度当初より着実に長くなっている。また、高等部で実施されているリモート学習の取組についても、その学習の様子を具体的に視覚的に捉えられることから、活動内容の理解が深まり、学年が上がるにつれて、集団の中に入って活動できるようになるケースも見られるようになってきている。このように、職員は児童生徒一人ひとりの状態を丁寧に観察しながら、よりよい参加の形を実現するために、日々工夫を重ねつつ指導・支援に取り組んでいる。

#### 【C委員】

先生方が児童生徒一人ひとりの目標を共有しながら支援に取り組んでいる様子を理解することができた。一方で、保護者にとっては「自分の子どもが集団にうまく入れていない」「自分の子どもの行動が周囲と少し違う」といった状況に、とても敏感である。そのため、先生方には、どのような視点で児童生徒を見守り、どのような考え方で支援を行っているのかについて説明していただくと保護者は安心できる。行事や授業参観の際には、「○○という意図で、このような取り組みをしています」「この行動は△△と捉えて、□□のように工夫しています」といった形で、意図や指導の工夫を積極的に伝えていただきたい。先生方の考え方や支援の工夫が保護者と共有されることで、保護者の安心につながると感じた。

#### 【学校】

大変貴重なご意見であり、機会を捉えて保護者の皆様には支援の工夫や視点などを丁寧に説明するように努めたい。

#### 【D委員】

特別支援教育のセンター機能の説明において、今年度の相談件数がおおよそ70件であり、以前と比較すると若干減少傾向にあるとのことだった。近年、どのような相談内容が多いのか、傾向を教えてください。

#### 【学校】

小学校、中学校、高等学校からは、児童生徒の特性に応じた具体的な関わり方や授業における工夫すべき点についての相談を受けることが多い。実際に訪問してその様子を見ながら、具体的な関わり方について伝えてくるようなケースが最も多い。継続型訪問支援と随時支援があり、合わせて現時点で70件となる。

### (3) 令和7年度学校評価集計結果について

#### 【G委員】

恵風支援学校の学校評価が高い理由については、これまで説明を受けた学校行事や取組の内容から理解することができた。市のアンケートでは、福祉分野に関する評価は厳しくなる傾向があるが、丁寧な分析と多様な取組を積み重ねることによって、高い評価につながっていることが分かった。

### 3 各委員から

#### 【B委員】

校長先生から示された今年度の重点目標については、いずれも着実に達成されていると感じた。本校との関わりに関連して、以下の3点について感想を述べたい。

学校間交流については、今年度も中学部を中心に交流を実施した。本校の生徒にとって、福祉の心を育む貴重な機会となっており、特に本年度は3年生が主体となって交流内容を企画し、充実した活動となった。交流学习は主に総合的な学習の時間で取り組んでいるが、学年の切れ目が生じないよう、今後はカリキュラムの構成について一層検討していきたい。

センター校としての役割については、各学年の進路に関する相談、難聴学級新設に向けた相談、特別支援学級在籍生徒の学校見学受け入れ、障がい特性に関する助言など、多岐にわたる相談に丁寧に対応していただいた。引き続き、来年度以降もご協力をお願いしたい。

開かれた学校づくりについては、崎山小学校 150 周年事業における恵風太鼓の披露など、現在進められている取組の中で、崎山小・中学校、恵風支援学校が協力して実施できる活動が増えてきている。例えば、崎山小・中学校がボランティアとして参加している崎山貝塚ミュージアム縄文祭（11月）における活動など、一緒に取り組める機会の充実など、連携の可能性を探っていきたい。

#### 【C委員】

先ほどの質問に関連して補足したい。私は児童発達支援として、いわゆる幼児教室を運営しており、保護者の方が、活動の流れにうまく乗れない我が子を見て不安を抱いている様子を目にしている。そのため保護者に対しては、「みんなと同じ活動に加わってなくても、この部屋にいて活動に参加していること自体が大切と捉えている」といった、児童の状況を肯定的に捉える視点を、教職員から積極的に伝えていただきたいという思いがある。

次に、スクールバスを使用した避難訓練だが、実際の災害対応を想定した非常に重要な取組である。恵風支援学校の立地は津波の危険性が低く、迅速に安全な場所へ移動するためにバスを用いることは有効だと思う。一方、周辺地域は土砂災害の可能性も想定され、場合によってはバスが通行できなくなる恐れがある。バスを使用できない状況下での避難方法についても、検討しておく必要があると考える。また、宮古圏域は岩手県内で最も広い圏域であるが、スクールバスが1台のみで運行されている。このため、利用できない児童も必ず生じると予想される。学校だけで解決できる問題ではないが、宮古の中心部以外の地域にもバスが運行され、通学手段として利用できるよう、県教育委員会等に対して働きかけていただきたい。

#### 【D委員】

私は障がいのある大人の方々と関わる中で感じていることは、子どもの頃の経験がその後の成長に大きな影響を与えるということである。本日、学校で取り組まれている多様な活動について説明を受け、大変感心した。今後も、子どもたちがさまざまな経験を積むことができるよう、引き続

き積極的な取組を進めていただきたい。

**【G委員】**

昨年度から学校運営協議会委員として、様々な学校行事等に参加させていただいており、福祉関係者として、このような機会をいただいていることに感謝している。宮古市福祉課では、今年度から重層的支援事業を開始しており、家族や個人が複雑な課題を抱える場合には、教育機関とも連携しながら支援を進めていきたいと考えている。学校側で説明が必要な場面、担当職員が出向いて説明を行うことも可能である。地域にはさまざまな困難を抱える家庭が存在しており、今後も学校と連携しながら支援体制を整えたいと考えている。

**【F委員】**

「屋外での活動で、生徒はとても生き生きとした表情を見せる」という話があった。恵風支援学校の生徒たちが地域交流の一環として、自治会と協力しながら海岸清掃に取り組んでいることを、次回の自治会総会で、地域の多くの方々に紹介したいと考えている。

**【E委員】**

現在、子供が高等部3年生であり、4月からの就労に向けて取り組んでいる。これまで学校でさまざまな経験を積んできたが、卒業後は家庭と職場の往復が中心となり、地域との関わりや多様な体験の機会が減ってしまう可能性がある。今後は保護者として、意識的に地域とのつながりや新たな経験の場をつくっていく必要があると感じている。

それから、崎山貝塚で11月に開催される縄文祭では、以前は恵風支援学校の生徒が参加し、餅まきを行っていた。地域には多くの関わりの機会があり、恵風太鼓の演奏なども含め、積極的に地域へ出て行き、地域の方々に生徒の活動を見ていただく機会が広がればよいと思っている。

**【A委員】**

各委員の皆様から大変貴重なご意見をいただいた。本日の説明を通して、学校経営の重点目標の中でも、特に地域との交流が大変活発に進められていることが理解できた。学校と地域が協力しながら教育活動が展開され、子供たちの成長を支えていることを心強く思う。今後も、学校と地域が連携しながら活動していきたい。

4 閉会